

私の思い出の場所
My memorable place

新大工町商店街

経済学部生の“食の台所”

長澤和彦さん 経済学部・1978年卒業

自宅から片淵まで徒歩と電車で1時間の通学、その後徐々に講義を聴くだけの授業…。そういう単調な日々の繰り返しの中で、私が憩いを感じていた場所、それが「新大工町商店街」でした。

旧長崎街道の玄関口にあたる新大工地区の歴史は古く、諏訪神社の門前市が常設化して明治期に商店街となり、さらに終戦後に公設市場が建てられて発展の礎となりました。昭和43年に玉屋デパートが進出すると、「新大工町」「天満」「新天満」の3軒の市場を中心に連日買い物客が行き交い、正月前には通りがびっしり人で埋まり真っすぐ歩けないほど。店の人と客の距離が近く、人情溢れる商店街を形作っていました。

私が通っていた昭和50年前後は、映画館や本屋、レコード店等もあり、主婦のみならず学生にとっても快適な街でした。再映専門館「新大映劇」では低料金で多くの映画を堪能、「好文書庫」では2〜3時間は余裕で立ち読みできました。

遊びの誘惑にも事欠かず、娯楽の殿堂・パチンコ店は「宝会館」。いつでも同級生と出会える不思議な場所で、4人揃えばそのまま裏通りの雀荘へ…というパターンの如何に多かったことか。腹が減れば、蕎麦屋「むさしの」、トルコライスの「ツル茶ん」、お好み焼きの「みやち」。喫茶店は「富士男」「民芸喫茶くらしき」「春本」のかき氷も懐かしい。おやつは「長崎屋」か「平井餅まんじゅう」か。そうそう、経済原論ゼミの児玉元平教授馴染みのスナック(店名は失念)も商店街のはずれにあり、ゼミを早終わりでまだ明るいうちから盛り上がったものです。貧乏な学生たちにもやさしい、安価で食材が調達できる有難い商店街で、西山や片淵の下宿では、よくささやかな宴会が催されていました。

それからほぼ半世紀、平成には「シーボルト通りオープンモール」として整備された一方、古くからの市場や商店が廃業するなどの紆余曲折を経て、令和4年11



1976年新大工町商店街(写真提供:長崎新聞社)

月、複合施設「新大工町ファンクエア」が街のランドマークとしてオープン。商店街の賑わいを再生し、新しい魅力を持つ街へと変貌しました。とはいえ、商店街の皆さんの思いは以前と少しも変わらず、消費者のそばに寄り添い、消費者と一緒に街を盛り上げていく、そういう心意気が今も受け継がれています。

まちなか移転も一部で噂される経済学部ですが、商店街周辺地区に住む学生たち、そして商店街に通う学生たちにとって、“食の台所”としての存在は欠かせま



現在の町並み

せん。新大工町商店街の新しい未来に大きな期待を抱くとともに、学生たちの食を支える場所として、これまで以上の繁栄を願っています。

編集後記

今、世界の核リスクがかつてなく高まっています。本来、世界の平和と安全の維持や、諸国間の友好関係の発展を担う国連において、その活動の中核となるはずの常任理事国ロシアがウクライナに侵攻。しかも、核兵器の使用を示唆し、国際社会を恫喝するという前代未聞の行動に出ました。世界の平和の行方が危ぶまれる今こそ、長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)の存在と取り組みを、ぜひ多くの皆様にご存知いただきたいと考えました。

世界唯一の被爆医科大学である長崎大学にとって、核なき世界の実現は歴史的使命といっても過言ではありません。RECNAは「核兵器廃絶」という人類の課題をその名に冠した世界オンリーワンの大学付属の研究所として、その使命の完遂に邁進しています。そしてそこには、過去を学び、核と平和の問題を自分事として捉え、未来に向けて行動している若い世代が多々います。

今号では、彼らと彼らを支えるRECNAの教員たちの想いを特集しました。未来へ世代を継いで活動を続けるRECNAの姿をご覧ください。

(広報戦略本部長 松井史郎)

読者プレゼント

長崎大学オリジナルクッキー

洋菓子メーカーコロパンの人気クッキー。クッキーと缶に、長崎大学のロゴをデザインしました。いろいろな味のクッキーが楽しめる一箱です。長崎大学生協で販売中です。



10名様

アンケートのご案内

広報誌Chohoへのご意見・ご感想をお寄せください。プレゼントのご応募も以下より承ります。①面白かった記事 ②本紙に対する意見・感想 ③今後取り扱ってほしい内容 ④長崎大学からの情報発信全般についてのご意見・ご感想 ⑤職業 ⑥年齢 ⑦氏名(ふりがな) ⑧郵便番号 ⑨住所 ⑩電話番号を明記してください。



- ハガキ 〒851-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学広報戦略本部 宛
- FAX 095-819-2156
- メール kouhou@ml.nagasaki-u.ac.jp
- 応募締切日/2023年6月末 当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます

Choho
直接送付サービス開始!

広報誌Chohoはその多くを、各学部同窓会様の会報誌送付の際に、直近の号を同封してお送りさせていただいています。そのため、読者の皆様には、必ずしもChohoを毎号お届けできないケースがあり、「前号も読みたい」「定期送付を希望」といったお声をいただいております。そこで、ご指定の住所へChohoを直送させていただくサービスを始めました。上記サイトへアクセスいただき、ご登録をお願いいたします。皆様のご利用をお待ちしております。



長崎大学 核兵器廃絶研究センター RECNA

RECNAホームページでは、活動状況や市民講座のお知らせなど最新情報を更新中。国際学術誌「Journal for Peace and Nuclear Disarmament (J-PAND)」もご覧いただけます。

長崎大学核兵器廃絶研究センター
Nagasaki University
Research Center for Nuclear Weapons Abolition

https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/

長崎大学SNSサイト

Facebook Twitter Instagram

Choho

人を結ぶ 地域と繋ぐ
[長崎大学チョーホー]

「大学と地域の垣根を取り払う」をコンセプトに、長崎大学の思いや姿、描く未来などを共有し、多くの皆様に長崎大学へ関心をお寄せいただけるような広報紙を目指します。



核軍縮に特化した世界で唯一の研究拠点

吉田文彦
核兵器廃絶研究センター センター長 教授

2009年4月、米国大統領だったバラク・オバマ氏は、ブラハでを行った演説の中で“核のない世界”を目指すメッセージを発信しました。これを受けて長崎大学は、核軍縮に特化した研究拠点の設置を目指します。その後、2012年4月に誕生した研究拠点は、ミッションをより明確化するために「核兵器廃絶研究センター(RECNA=レクナ)」と名付けられました。

長崎大学 核兵器廃絶研究センター

RECNA

REsearch Center for Nuclear Weapons Abolition, Nagasaki University since 2012

核問題の専門家が集うRECNAでは、調査・研究に取り組むとともに、教育・人材育成にも力を注いでいます。また、長崎県、長崎市、長崎大学の三者で核兵器廃絶長崎連絡協議会を設立。市民社会へ情報発信を行い、ナガサキ・ユース代表団を指導する役割も担っています。

2022年4月、RECNAは10周年を迎えました。奇しくも、ウクライナ侵攻など核をめぐるさまざまなニュースが、複雑に入り組んだ1年でした。そして、長年の知己が相ついで鬼籍に入られ、被爆者の方々から直接お話を聞けなくなる時代がすぐそこに迫っている現実を目の当たりにしました。“長崎を最後の被爆地に”。重要なメッセージをどのように継承し、発展させていくのか。次の10年に向けて、核軍縮の本質を見極めながら、RECNAの発信力を強める方法論を見出していきたいと考えています。

浦上天主堂遺壁

爆心地公園の一角に、原爆により破壊された浦上天主堂の聖堂の壁の一部が移設されています。その無残な姿から、原爆のすさまじさや恐ろしさが伝わってきます。



RECNAのミッションと 核軍縮の未来

[インタビュー]

ユースの活動を通して見た世界 理想と現実の狭間で核問題を考える

原田怜奈 ナガサキ・ユース代表団 第6期生 多文化社会学部卒

原田さんは多文化社会学部で国際政治を学んでいた頃、ナガサキ・ユース代表団第6期生として活動しました。社会人になった今、核問題に対してどのように向き合っているのでしょうか。

——大学入学前は長崎の被爆の歴史について、どのようなイメージを持っていましたか。

怖いなあ。普通の学生が持っているそんなイメージでした。知識が伴うにつれて、客観的に物事が見えるようになりました。戦争被爆したのは長崎と広島ですが、世界中には核の被害に遭った人たちが他にもいる。そして核兵器は必ずしも戦争の手段ではなく、政治の手段として使われていることも学びました。問題はずっと複雑なんだなと思いました。

——核兵器不拡散条約(NPT)再検

討会議では、どのような経験をしましたか。

各国代表のスピーチを傍聴しました。それだけでも勉強になりましたが、ユネスコやWHO、赤十字国際委員会など、さまざまな国際機関も訪問しました。会議中には、各国の代表団と話をする時間もありません。当時の私は、核廃絶や市民社会の結束が大事だという立場でした。国際政治を研究する上では、より客観的な分析が必要だと思い、ユースの任期が終わった後ベルギーに留学しました。大学を卒業後に進学した東京の大学院では、核廃絶を支援しては

いるけれども、現実的に国際政治を見る先生の下でNATOに関する研究を深めました。アメリカ側の視点など、核兵器保有国側の考えも勉強しました。今、NPTに参加したら、もっとたくさんのことを理解できるのかなと思います。

——ベルギーは核兵器に対して、どのようなスタンスを取って



るのでしょ。

アメリカと核シェアリング条約を結んでいます。アメリカの核兵器を十数機、自国に配備していて、有事の際にはアメリカのコントロール下で使用できるようになっています。国内にはNATO本部があり、核兵器が保管されている施設の前でデモが起きるなど、市民レベルでは核を廃絶しようという運動もあります。政府と市民の

間にはギャップが生まれていますが、ウクライナの件もありますし、そもそもロシアからの脅威を見過ごすことはできないでしょう。核廃絶に踏み切るのは難しい状況なのかなと思います。最近、日本でも核シェアリングに関する議論が出たと思います。世界情勢を踏まえると、すぐに核兵器を無くすのは難しいかもしれません。答えは出ません。

——勉強すればするほど答えは見つかりませんか。

そうですね。たとえば政治や政府が変わって、市民社会が核廃絶の方向に向いたとしても、トップ一人の考えで状況は簡単に変わるでしょう。結局は人なんだなと思います。一人一人のレベルで、核ってダメだよって共通認識を持つしかない。相手を知らないから攻撃ができるんだと思います。相手を知るためにも、本当に小さな単位からお互い歩み寄っていくしか、手段はないのかなと思います。

——改めて核兵器問題について、いま何を考えますか。

状況はもっと難しくなっていると思います。ウクライナや北朝鮮のミサイル問題だけでも緊迫感は増えていますし、核兵器も小型化して通常兵器として使やすくなるという案もあります。いつまた戦争中に核兵器が使われる状況になるかわかりません。使われてからでは遅いので、核兵器使用がいかにダメなのか規範を浸透させる。そして、そのような雰囲気や政治の中でも浸透させることが

プロフィール

はらだれな 長崎大学多文化社会学部を卒業後、一橋大学大学院に進学。NATOの核共有政策について研究。現在は楽天グループ株式会社に勤務。自社のIT系サービスを海外のITカンパニーに販売するチームに在籍。海外のセールス担当者としてやりとりしながら、営業プロセスの管理業務を担当。

重要だと思います。日本も大事なプレイヤーになるのではないのでしょうか。唯一の被爆国として、声を挙げていくべきだと思います。

——国際政治に対する、興味や関心をもち続けているのですか。

はい。今はまだ今の場所で頑張りたいと思っていますが、何年後かには、またこの分野に戻りたいです。平和のアクションに関わる仕事や活動に、いつかまた携われたらと思っています。

——これからのRECNAに何を期待しますか。

RECNAは核や国際政治、平和について考える、国内トップレベルのプラットフォームだと思います。これからずっとそこにあり続けて欲しいです。



留学先のベルギーでは、ヨーロッパやベルギーの歴史を学んだ原田さん。NATOに興味を持つきっかけになりました。

2013 — Nagasaki Youth — 2023 Delegation

2023年 ナガサキ・ユース代表団



ナガサキ・ユース代表団第11期生の皆さん。

ナガサキ・ユース代表団とは、長崎県・長崎市・長崎大学の3者で構成された核兵器廃絶長崎連絡協議会が主催する人材育成プロジェクトです。2022年12月、ナガサキ・ユース代表団第11期生メンバーの発表と任命式が行われ、現在、長崎大学や活水女子大学の学生あわせて7人が活動しています。活動は任命式後からミーティング、年明けから基本的な知識の習得を目指す勉強会がスタート。核軍縮・不拡散問題に関する国際会議への参加など、任期が終了する2023年8月まで充実した活動が続きます。活動について、ユースの先輩である原田さんに聞きました。

「基本的な知識を学ぶための場は提供されますが、勉強会の内容やどんな人に会いたいのかな、自分たちで考えてアポイントを取るなど、能動的な動きが求められます。私たち6期生は、報告を兼ねた展示や全国各地での出前講座も行いました。大学の勉強と並行して活動しますので大変ですが、自分自身の成長に必ずつながり、新しい分野への興味が生まれることもあります。私にとってはそれがNATOであり、そして留学や大学院進学へのきっかけになりました。仲間の中には、サステナビリティの分野に進んだ人やイギリスに留学した人もいます。将来どんな仕事に就いても、ユースでの経験はきっと役立ちます。頑張ってください」。



2018年にジュネーブで行われた核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議に出席。各国の代表団の前でスピーチも行いました。

Toward a Peaceful Future

[教育]

多角的な教育プログラムで 核問題に向き合うすそ野を広げる

中村桂子 核兵器廃絶研究センター 准教授

長崎大学には教養教育の一環として、全学諸生が履修できるモジュール科目があり、核関連の科目をRECNAの教員が担当しています。また、多文化社会学部と大学院では、より専門性の高い授業を提供するなど、世界でも例を見ない、多角的な教育を実践しています。授業を担当している中村先生の専門は、核軍縮および市民社会・核兵器廃絶。NGOでの経験を踏まえ、次世代を担う人材育成

に情熱を注いでいます。

「長崎でどのように次世代の担い手を育てていくのか、人材育成は私自身が大切にしているテーマの一つです。核問題に対して周りが無関心な中、限られた人だけが声を上げる世の中では、閉塞感はいくらむばかりです。より多くの若い人たちが、問題を自分事として捉え、真剣に取り組む世の中の流れを作るには、多文化社会学部やナガサキ・ユース代表団のような専門家を育てる教育と、すそ野を広げる教育の両方が重要です。それがRECNAの使命でもあります」。

中村先生は授業の冒頭で、核問題に対する自分自

身の考えを学生たちに伝えます。そうした上で、一人一人の自由な考え方を尊重するのだそうです。

「核兵器をめぐって世界の考え方が対立する中、良い悪いではなく、どのようにして平和を守っていくのか、その点を学生には問いかけていきます。色々な人とディスカッションを重ねることで、揺れに揺れながら考えるようになります。その結果、やっぱり日本は核抑止に頼った方がいいのではないかと、考える学生もたくさんいるんですよ。正解も不正解もありません。大事なのは自分で考えることです。自分の人生と核兵器問題は無関係だと思うのではなく、例えば環境問題や人権問題と同じようにすぐ隣に

あるものだと、意識できるようになるだけでも構いません」。

じっくり人を育てることは、RECNAの重要なミッション。一方、世界に目を向ければ、核兵器を取り巻く現実はずっと厳しく、次の10年を歩むにあたり葛藤もあると中村先生は言います。

「長崎を最後の被爆地という願いが破られる、まさに崖っぷちに世界は立っています。長崎にいる私たちに何ができるのか、世界から問われる10年になるでしょう。正直、焦りもある一方、やはりこれまでと変わらず、じっくり着実に若い人たちと向き合っていきたいと思っています」。



「若い人たちが自分の頭で考えて動き、自信を持って新しいものを作っていく。そして長崎から動き出せば、たくさん人の刺激が得られるはず。それをサポートするのがRECNAの役目」と中村先生。

核のない世界を目指して 軍縮と安全保障の在り方を問う

西田 充
多文化社会学部 兼 核兵器廃絶研究センター 教授

西田先生は長年、外務省で軍縮・不拡散専門官として活躍。アメリカ、北朝鮮、中国、日本、韓国、ロシアによる外交会議「六カ国協議」で交渉団の一員を務めるなど、軍縮不拡散関係の業務に従事してきた核問題のエキスパートです。多文化社会学部で調査・研究に取り組んでいる現在、どのような視点から軍縮問題にアプローチしているのでしょうか。西田先生のお話です。

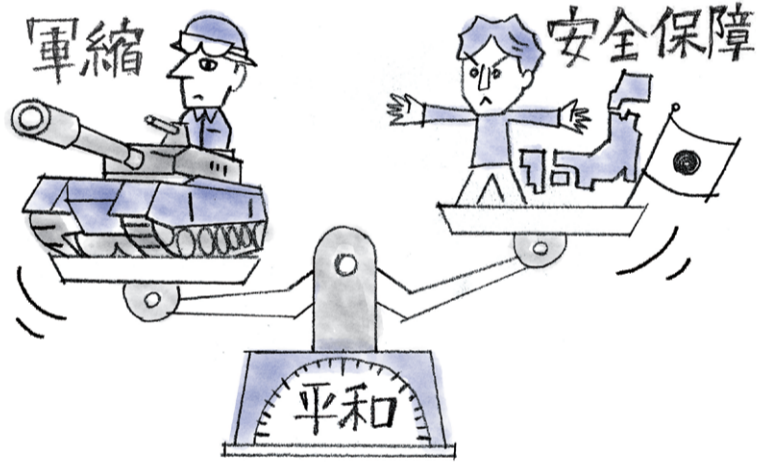
「これまで軍縮と安全保障は、対立的な捉えられ方をしてきました。例えば、広島・長崎からの声も、基本的には、核兵器は悪いものだから無くすという倫理的な観点から発せられていると思います(もちろんそれは重要なことです)。その一方で、安全保障の世界では、軍縮は安全保障を害すものという認識が一般的に根強く、せいぜい安全保障を損なわない形で軍縮ならよいという、ネガティブな発想になってしまっています。現状のままでは、軍縮が国際政治や安全保障のメインストリームになるのは難しいでしょう。そこで、それぞれが対立するの

ではなく、安全保障を向上させるための軍縮とは何か、逆にして考えることで軍縮を有効な政策ツールに押し上げるアプローチで研究しています。具体的なテーマとしては、日本の安全保障に直接影響を及ぼす問題に取り組むことが先決ですので、中国や北朝鮮の核問題を抑えるためのツールとしての軍縮や、抑えた上で地域の核問題をどのように解決すべきか研究しています。こうしたアプローチも核のない世界に近づくに貢献できるはずですよ」。

国際政治や外交・安全保障に留まらず、歴史、原子力、地域問題など、さまざまな要素が複雑に絡み合う軍縮問題。「研究にゴールはない」と先生は言います。そんな中、学生たちに伝えていることがあるそうです。

「研究する上で大切にしたいのは、核をなくすというパッションです。一方、調査・分析を行う時には、あるがままの事実を冷静に見ることが非常に重要だと伝えています。私自身、核問題に興味を持つきっかけになったのは、小学生の頃に読んだマンガ『はだしのゲン』と、修学旅行で訪れた長崎

でバスガイドさんが歌ってくれた『原爆を許すまじ』でした。あの頃のパッションを忘れないよう、広島・長崎の被爆に関する歴史など、改めて学びたいと思っています。また、国内外の政府関係者と話す機会には長崎の視点をインプットしていきたいと考えています」。



世界的に評価が高まる RECNA編集の国際学術誌

Journal for Peace and Nuclear Disarmament (J-PAND)は、長崎大学が発行している国際学術ジャーナル。編集をRECNAが担当、英国の伝統ある出版社であるTaylor&Francisから、年2回オンラインで刊行しています。同社が出版する核軍縮関連の学術誌の中では、J-PANDがアジア太平洋で唯一の存在です。2017年の創刊後、認知度や評価が次第に上がっており、アフリカ、南アジア、中東、ラテンアメリカ、韓国、オセアニアなど、世界各国の研究者が論文を投稿。核軍縮研究の拠点を目指す長崎大学の存在感を世界に示す、重要な役割を担っています。



被爆地の高校生に聞く学びと平和への想い

活水高校平和学習部の皆さんに、平和学の授業と部の活動についてお話を伺いました。

教育・人材育成はRECNAが掲げる、重要なミッションの一つ。大学内での取り組みに加えて、活水高校の平和学の授業では、核問題について高校生の皆さんに知識や考えを深める時間を提

供しています。戦後まもなく、東山手から爆心地に近い浦上の丘に移転した活水高校。平和への祈りと行動の文化を培うスクールアイデンティティーは、どのように育まれているのでしょうか。活水高校

戦争を終わらせるためという理由を知っても、正しいとは思いません。でも、世界にはそのような意見を持っている人もいますのだと、現実を理解できたことは良かったと思います」。

組んでいる学校は、全国でもほかに類を見ません。だからこそ「長崎で学び、長崎から伝えることに意味がある」と皆さん。卒業生の中には、貴重な経験を機に長崎大学の多文化社会学部へ進学する人や、ナガサキ・ユース代表団に参加する人もいます。今後の取り組みについて、部長を務める牧 沙也加さんに聞きました。「今ロシアのウクライナ侵襲により、核の脅威に脅かされています。私たちの活動を通して原爆の実相を知ってもらい、特に若い世代にとって、核のない平和について考えるきっかけになってほしいです」。



ピンチはチャンス。コロナ禍でオンライン交流という選択も増え、特に海外と交流できる可能性が広がりました。

平和学習部の皆さんに、平和学の授業について聞きました。「印象に残っているのは、原爆投下は正しかったと考える人たちについて学んだ授業です。そのように考える人たちが、アメリカには一定数いることは分かっていたのですが、理由は知りませんでした。このように部活として、平和学習に取り

サークル記事について感想をお寄せください



Circle [サークル]

Circle Interviews

広報活動 サポーターがインタビュー

取材当日、偶然にもいろは団の部室へ顔を出してくれたOBが、一緒に取材を受けてくれました。

近藤由菜さん 教育学部3年



部室を探索していたところ、「歴代公演のチラシ」発見!



[演劇部いろは団] 1977~ 公演中止の危機に直面! 救ってくれたのは先輩だった

—演劇部いろは団は、1977年の創部だそうです。長崎大学の部活やサークルの中でも歴史が長く、シリアス系から感動系まで、演目も幅広く受け継がれてきた練習はありますか? **山邊さん** 筋トレやボース練習、即興劇は以前からあります。ただ、それがいつ引き継がれたものなのか知らなくて……。 **OB** 僕は2008年の公演に出演したのですが、その時から変わっていないですね。

—他に、サークルの立て看板等はどうでしょうか? **OB** 確かに昔から変わっていない。僕はあの看板を見ていろは団に入りました。 **菅野さん** 部室は変わっていませんか? 建物自体が古いもので。 **山邊さん** そういえば、以前、部室にあった2段ベッドは、私たちが片づけてしまいました。ぬいぐるみが大量に置いてあって、大掃除が大変でした……。 **OB** そうそう。いつの間にか無くなっていったからびびりました。 **山邊さん** 公演の前後には、お菓子の差し入れ、皆さんの名札がありますね。「あ組」「き組」「き組」と分かれているみたいですが、どんな意味があるのでしょうか。 **山邊さん** 代々学年ごとに「いろは歌」の順で名札が分かれていて、もうすぐ一巡しそうです。 **山邊さん** いろはにはほへとりぬるを…これ



だけで、かなり歴史のあるサークルだとわかりますね! 今日OBの方がいらっしゃっていますが、卒業した先輩方とはよく交流されるのですか? **山邊さん** 去年の冬公演から、オンラインでの事前受付を開始したのですが、先輩が遠方から公演を観に来てくださることもありました。—やっぱり、観に来てほしいですね。 **全員** 観に来てほしいです! **山邊さん** 公演の前後には、お菓子やジュースを、部室まで差し入れてくれる先輩もいて、嬉しいです。—演劇という、会場費や衣装、舞台美術など、何かと入用なイメージがあるのですが、そのあたりはどうでしょう。 **山邊さん** 基本的には、全て部費で賄っているのですが、厳しい部分も

あります。2021年の冬公演の時は、金銭面で苦境に立たされ、公演中止になりそうでしたが、先輩方からご寄附をいただけて、助かりました。 **河野さん** 先輩が積極的にチケットを買ってくれて、いろいろな方に配ってくださることもありましたね。—多くの先輩方に支えられているんですね。今後、先輩方と一緒にやりたいことはありますか? **OB** 僕たちの代は、公演後の打ち上げや少年自然の家で合宿をやっていました。 **全員** それやってみたいです!

創部年: 1977年(昭和52年)
部員数: 19人
活動日: 月・水18:00~21:00
土10:00~15:00
※公演1週間前は基本的に毎日活動。



夏公演当日、チトセシアホールで本番前練習。



手作りしているチラシも作品の一部です

日々の練習や衣装、セットの準備といった現役生の努力はもちろん、歴代の先輩方が作り上げたものや支えがあるからこそ、今のいろは団が活動できているのだと分かりました。公演のチラシや名札からも歴史を感じました。現役生も知らない情報もまだまだあり、興味深かったです。いろは団の今後の更なる発展を願っています。

左から、河野元氣さん(工学部1年) 山邊愛恵さん(情報データ科学部2年) 菅野可奈子さん(教育学部2年)



いろは団の情報はこちらから



Saiyu Fund

[西遊基金]

令和4年10月29日

3年ぶりの開催!

長崎大学ホームカミングデー2022

文教キャンパスの文教スカイホールにおいて11回目の長崎大学ホームカミングデーを開催し、本学の卒業生や在学学生、教職員など多くの方々にご参加いただきました。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、2020年、2021年と開催できず、3年ぶりの開催となった今回は、学園祭との同時開催とし、賑やかな母校の姿を卒業生の皆さんにご覧いただくこともできました。

講演会では、本学経済学部のOBであり、TOTO株式会社代表取締役会長でもある喜多村円様を

講師にお迎えし、『どうしても親切が第一』と題してご講演いただきました。TOTOの創業理念と継承、それに基づいた経営戦略や使命、さらにそれらを社員が共有することの重要性についてお話しされ、中でも「それぞれの意思を大きく束ねるのが理念 理念の先にある夢(あるいは姿)を語ることが経営」という言葉は印象深く、参加者からも、「リーダーとしての言葉が身にしみました。」「とても興味深いものでした。ぜひ学生にも聞かせたい内容です」など、多くの感想が寄せられました。

会場を、学食でおなじみの生協食堂に移して開催した卒業生・在学生交流会では、学生によるアクションも楽しみつつ、卒業生同士の交流、情報交換はもちろん、在学生と卒業生との交流も見られました。

ホームカミングデーは令和5年度も開催予定です。いち早く開催案内を皆さまにお届けするため、是非、校友会メールマガジンにご登録ください。下記2次元コードから登録できます。校友会メールマガジンでは、毎月長崎大学の注目情報や教育・研究成果、イベントのご案内をしています。



山下俊一名誉教授(左)が校友会会長賞を受賞。



喜多村円TOTO株式会社代表取締役会長による講演会。



キャンパスツアー。



交流会の様子。

当日のスケジュール

15:00	開会、校友会会長あいさつ
15:10	長崎大学の現状報告
15:40	校友会賞表彰
15:50	西遊基金 高額寄附者への感謝状贈呈
16:00	講演会
17:00	文教キャンパスツアー
17:30	卒業生・在学生交流会
18:30	閉会

ホームカミングデーは令和5年度も開催予定です!

いち早くホームカミングデーの開催案内をお届けします。校友会メールマガジンにご登録ください。



令和4年11月11日

長崎大学東京交流会を開催しました



千代田区大手町のKKRホテル東京で開催。

本学とご縁のある関東地区の卒業生や共同研究企業の代表者などをお招きし、長崎大学東京交流会を開催しました。初めての開催となるこの交流会は、日頃のご支援に対する感謝とともに、教育・研究活動に

関する現況や取り組み等を紹介し、交流を通じて本学へのご理解を一層深めていただくことを目的に企画したものです。

第1部では、河野茂学長から、学生・留学生数や就職状況等の動

向、ウクライナ避難民学生受入状況、BSL-4施設竣工などの長崎大学の現状や、長崎スタジアムシティへの大学院(情報データ科学分野)の入居等といった今後の展望について報告を行いました。

続く講演会では、熱帯医学・グローバルヘルス研究科長の北澤教授に、「今こそ長崎から世界へ—感染症研究の基礎、そして臨床—」と題した講演をいただきました。本学のコスタ・アランチャ号における新型コロナウイルス対応や感染症研究・教育などの取り組みと、5-ALAがミトコンドリアの機能を活性化させ抗ウイルス免疫反応を強化することを突き止めるに至った経緯や5-ALAの今後の方向性など、

第2部では、西遊基金へ多大なご支援を賜りました、葉國豊様・葉麗子様への感謝状贈呈式を執り行いました。その後、引き続き交流懇談会を開催し、和やかな雰囲気の中で、多くの方が交流し、親睦を深められ、盛況のうちに閉会となりました。

参加者アンケートでは、「産学官連携事業の展開に関する予定等を教えていただきたい」「長大と地域との連携など他のモデルになるような取り組みがあれば紹介いただきたい」「今回は長崎大学について知る良い機会となりました」などの意見・感想が寄せられており、本学の事業・取り組みについて皆様に興味を持っていただける機会となりました。

今後も県内外において、このような場を設けていきたいと考えています。

ししのごプロジェクト 「プラネタリーヘルスレポートカード」

苦勞の末に日本オリジナルのフォーマットが完成



ししのごプロジェクトの皆さん。環境科学部2年 村中瑠莉さん(前列左)、医学部医学科3年 川上日菜子さん、医学部医学科2年 佐瀬光雄さん(後列左)、医学部医学科3年 小浦穂生さん。

群馬県で行われた日本医学教育学会大会2022の旅費を支援していただき、取り組みに興味がある1年生を含む6人で参加することができました。他大学の先生方のお話を聞く機会にもなり勉強になりました。

ししのごプロジェクトは、社会課題の解決を目指す長崎大学の学生団体です。子育て支援、手洗い教育、性教育など、さまざまなプロジェクトを進める中、「プラネタリーヘルスレポートカード」に関する取り組みの活動費として、西遊基金が活用されました。

プラネタリーヘルスレポートカードとは、大学内におけるプラネタリーヘルスの取り組みを、学生が調査・評価するというものです。これまでの活動は、欧米諸国の医学部生が中心でした。日本

国内の大学では、2021年に長崎大学が初めて報告書を提出しました。「英語で書かれている質問フォーマットを、和訳するところから始めなくてはいけません。その後、医学科の先生方に質問メールを送り、回答をもとに評価を行い、その結果を再び英訳しました。大変な作業でしたが、学会への参加や他大学との交流にもつながりました。今後は学内をはじめ、全国の大学にも取り組みの輪を広げていきたいです」と、ししのごプロジェクトの皆さん。和訳した質問はプラネタリーヘルスレポートカード本部に認められ、同本部のホームページに掲載。2022年度は、環境科学部でも調査・評価活動を実施しました。



滋賀医科大学の皆さんとの交流会の様子。

※プラネタリーヘルス 地球の健康が人の健康にもつながっているという考え方。

サークル活動支援基金の活用状況について

Choho vol.80でご紹介したサークル活動支援基金について、多くの反響があり、寄附のお申し出をいただいております。皆様からのご支援誠にありがとうございます。今回は実際にサークル活動支援基金を通じて、寄附を受け取った皆さんからのコメントを紹介いたします。



女子サッカー部

ナイター練習で活用できる 光るサッカーボールを購入予定



文教キャンパスのグラウンドにはナイター設備がなく、冬の期間は真っ暗な中で練習をしています。暗いと練習内容が限られ、十分な練習を行うことができません。今回のご寄附で光るサッカーボールを購入させていただく予定です。ボールだけでも見えるようになれば、今より暗い中でも質の高い練習を行うことができると思います。多くの方が応援してくださっていることに感謝し、来シーズンは全勝、無失点を目指して、日々の練習に精一杯励んでいきます。

全学男子バスケットボール部

バスケットボールやクーラーボックスなど、部の備品を新調することができました。以前より数段良い環境で練習できることを嬉しく思っています。昨年11月に行われた長崎学連では準優勝することができました。これからは1部リーグ昇格を目指して頑張ります。この環境に感謝し、さらに上達していけるよう練習に励みます。

バスケットボール等 備品を新調



RONRock部

機材購入や ライブ資金に活用



寄附金に関しましては、バンド練習で使用するマイクやモニター、ドラムなどの機材や、ライブハウスでライブを行う際の資金の一部に利用させていただきたいと思っています。必要な機材は高額なものが多く、故障しても修理や新品購入が困難でした。新しい機材が使えることで、より良い環境で練習に集中することができます。ライブでも高いパフォーマンスにつなげることができ、嬉しく思います。機会がございましたら、ライブに足を運んでいただけると嬉しいです。

西遊基金

「西遊基金」は、長崎が長年にわたって培ってきた個性と伝統を基盤に、地域の発展から地球規模の課題まで、種々の問題を解決するための傑出した人材育成を目指した、長崎大学独自の修学支援、さらに教育・研究の幅広い支援を目指した基金です。



西遊基金に関する情報はこちらからご覧いただけます。

